

個性のある教育は何処へ

然し昔の学校は、入試に個性があったばかりではありません。カリキュラムの編成や教授法にも個性があったのです。大東文化学院では、科目が「論語」とか「孟子」「史記」といふやうになってゐて、中国の古典を一冊づつ片っ端から学習して行ったのです。全科目必修で、朝から毎日6時間ぶっ続けに学習する事になってゐて、その中の数科目が“^{りんこう}輪講”と言って学生が教授に代って輪番に講義し、それに関する学生の質問にも答へる事になってゐました。だから、毎日予習復習で大変でした。今の大学生にはとても想像できないでせう。その代り、かういふ教育を6年間受けた私どもの漢文における自信は極めて大きいものがあります。

昔の学校にはこれだけの個性がありました。だから、自分に合った学校を選ぶ事により、自然と自分の個性を育てる事が出来たやうに思ひます。所が、今は入学試験から始まってカリキュラムの編成、教授法その他総てどこの大学も皆同じで、個性といふものが全くありません。とりわけ入試の画一性は、高校以下の学校をこれに適応させる為に画一的な教育を一層画一的にしてしまひ、個性の強い人間は大学に入れなくなつてしまひました。

画一的な人間ばかりの社会は、いかに個々の能力が高くても沈滞するものです。俗に言はれてゐるやうに「大将ばかりでは戦争は出来ない」からです。個性のある人間が社会を活性化し、世の進歩発展に寄与してゐるのです。だから、社会は万能の人間よりも一芸に秀でた人間を必要としてゐるのです。

所が学校は、一学科に秀でてゐるだけではこれを不可とし、総ての学科に精通する事を要求します。

昔の教師には個性がありました。「普通の教師はただ説明する。優秀な教師は理解させる。本当の教師は学習者の心に火を点ける」と言ひます。学習者の心に火を[?]点ける事が出来るのは「個性のある教師」だけです。幸ひ学校には大勢の教師がゐます。その教師たちがそれぞれに個性を發揮すれば、学習者はそのいづれかに触発され点火される可能性が高いでせう。

但、残念な事には、今の教師たちは個性のある教育を恐れて画一的教育に精出してゐるのです。その主な理由は、校長が個性的な学級経営を嫌ひ、個性的な教師を敬遠するからです。多くの校長は、保身上、高い教育効果よりも安全無事の教育を望んでゐます。

然し、^{いっしょく}苟も教育者たる者は「学習者の心に火を点ける」真の教師を目指し、「教育の醍醐味」を知って楽しんで欲しいと思ひます。